

様式1 令和4年度 山梨県立甲府城西高等学校 学校評価報告書

学校目標・経営方針	何事にも主体的に取り組み、創造する力と豊かな人間性を身につけ、社会に貢献する生徒を育成する。		
本年度の重点目標	1 主体的に学び続ける力を育む(主体性)	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 創造力を高める思考力・判断力・表現力を育む(創造性)		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む(人間性)		C 不十分である。(4割以上)
	4 規範意識を高め、社会性を育む(社会性)		D 達成できなかった。(4割以下)
	5 社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む(協働性)		

山梨県立甲府城西高等学校校長 田代 剛久

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的に学び続ける力を育む (確かな学力の育成)	①学習指導の工夫・改善に努め、自ら学び、考える力を育む。	学校評価アンケート	・「学習指導の工夫改善」 一評価A18.9%、評価B43.5%	B	今年度も教員間で相互授業観察を行い、学習指導の工夫改善に努めた。今後は個別最適な学びを意識しながら、自ら主体的に学び、考える力の育成を行う。 教科横断的な組織的な取り組みや、更にICTを積極的に活用することで、4つの力の育成や授業改善に努めていく。 体験的な学習は学習計画の中に根付いているので、更に生徒の興味・関心や意欲を高められる内容について検討し、改善を図っていく。 生徒のABの評価を合わせると81.7%となり、約8割の生徒が目的意識を持って学校生活を送っている。引き続き学校全体で取り組んでいく。
		②授業を通して4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。	学校評価アンケート	・「授業を通して4つの力の育成」 一評価A24.8%、評価B49.1%		
		③体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め、学び続ける力を育む。	学校評価アンケート	・「体験的な学習の重視」 一評価A26.4%、評価B47.8%		
		④目的意識を持って行動する態度を育む。	学校評価アンケート	・「目的意識を持って行動する態度の育成」 一評価A23.7%、評価B50.8%		
2	創造力を高める思考力・判断力・表現力を育む (豊かな心の育成)	①全ての教育活動において指導の狙いを明確にし、「主体的・対話的で、深い学び」の実現に努める。	学校評価アンケート	・「主体的・対話的で深い学び」 一評価A25.9%、評価B50.8% ・「授業でのICTの活用」 一評価A31.3%、評価B44.7% ・「授業の目標提示と振り返り」 一評価A23.7%、評価B46.1%	B	1年次の一人一台パソコンの導入もあり、昨年より「授業でのICTの活用」がより一層推進されたが、コロナウイルス感染予防対策の為に「対話的な学び」は難しく、あまり十分に実施できなかったようだ。今後はICTを積極的に活用し、個別最適な深い学びの実践を目指していきたい。 生徒の評価はAB合わせて82.4%と高い結果となった。教育課程が整い、系列科目の積み上げによる資格取得が可能となり、意欲的に資格取得に挑戦する生徒も増えた。今後も継続して取り組んでいく。 ICT(スタディサプリ等)の活用や実力診断テスト、また小論文・面接指導を積極的に行った結果、生徒の評価も高かった。今後は更にICTツールを使用した様々な授業実践や個別指導を推進しながら、生徒全員の進路実現に向けて取り組んでいく。
		②資格取得を奨励し、専門性の高い実践力を育む。	学校評価アンケート 資格取得結果	・「資格取得の奨励」 一評価A24.9%、評価B55.5% ・「系列の特色を生かした授業」 一評価A29.1%、評価B50.3%		
		③基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせ、進路実現に結びつける。	学校評価アンケート 実力診断テスト 進路実績	・「ICT活用で学習習慣の確立」 一評価A23.4%、評価B42.3% ・「実力診断テストの活用」 一評価A22.4%、評価B43.4% ・「課外や小論文・面接の個別指導の充実」 一評価A28.0%、評価B46.5%		
3	心身を鍛え、豊かな人間性を育む (健やかな体の育成・特別支援教育の推進)	①自己を正しく理解し、在り方・生き方について考えさせる取り組みを実践する。	学校評価アンケート	・「LHRや外部講師の講義の効力」 一評価A24.4%、評価B50.1%	B	外部連携をより強め、自己理解や今後の人生について考えさせる効果的な講演会を企画・運営するなど、自分自身を見つめ、考える授業を実践していく。 生徒のAの評価が高く、高い意識を持ち部活動に取り組んでいる生徒が多い。部活動の活性化は学校全体の活性化に繋がるので、今後も学校全体で盛り上げていく。 LHRでの実施は一定の評価が得られた。今後も道徳教育を通じ、しなやかな心の育成や、いじめをうまない環境づくりの指導に努めていく。
		②部活動を通して心身の健康や健全な人間関係を築く力を育むと共に外部指導者を活用し、顧問の負担を軽減する。	学校評価アンケート	・「部活動での健康や人間関係の育成」 一評価A32.2%、評価B44.0%		
		③教育活動全体を通して、道徳教育の充実に努める。	学校評価アンケート	・「LHRでの道徳教育の実施」 一評価A19.7%、評価B42.4%		
4	規範意識を高め、社会性を育む	①基本的な生活習慣を確立させる。	学校評価アンケート	・「遅刻指導などの充実」 一評価A28.3%、評価B53.2% ・「あいさつ習慣の確率」 一評価A26.1%、評価B47.8%	B	始業5分前の遅刻指導についての生徒の評価は高く、朝のSHRでの健康観察など、基本的な生活習慣のための指導も十分に行われている。今後も継続した指導を行っていく。 生徒・保護者の評価が最も高まっている反面、厳しすぎる指導に疑問を感じている生徒・保護者もいる。今後は、今の時代に合った校則や指導の見直しについて検討をしていく必要がある。
		②社会人として必要なルール(規則)やマナー(礼儀)を身につけさせる。	学校評価アンケート	・「服装・頭髪指導の徹底」 一評価A32.4%、評価B45.0% ・「交通マナー指導の充実」 一評価A27.6%、評価B50.9%		
5	社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む (地域や世界で活躍できる人材の育成)	①NIEを活用して社会の情勢を知り、自らの意見をもつことができるようにする。	学校評価アンケート	・「授業やLHRでの新聞活用」 一評価A19.1%、評価B39.9%	B	生徒自らが考え、自分の意見を持ち、それを文章で表現する活動ができているが、今後はパワーポイント等を活用し、自分の意見を発表できる場を授業内で積極的に作っていく。 山梨の産業や文化を題材とし、外部と連携をしながら総合学科の特色を生かしたキャリア教育が継続して行われている。今後も個々の進路実現に向けて、内容の充実を図り、教育を深化させていく。 芸術鑑賞会の実施や、校外学習での体験を通じ、豊かな心の育成を目指した。また関西・広島方面への修学旅行も無事実施することができ、日本の文化や芸術に触れさせることもできた。今後も更に発展的に学習する機会を設け、理解を深めさせたい。
		②キャリア教育の充実を図り、個々の進路に向けての意識づけを行う。	学校評価アンケート	・「インターシップ等の充実」 一評価A25.1%、評価B51.1% ・「産社やLHRの効果」 一評価A27.0%、評価B50.3%		
		③文化・伝統・芸術に触れ、豊かで健全な情操を育む。	学校評価アンケート 生徒感想文等	・「文化・伝統・芸術に触れ、情操を育む」 一評価A28.6%、評価B47.4%		

学校関係者評価	
実施日(令和5年3月4日)	
評価	意見・要望等
4	・8系列の学びを充実させていくべきである。甲府城西高校は総合学科高校の成功例の一つだと思ふ。行って良かった、行かせて良かったと思ってもらえるように今後も学びを深化させて欲しい。 ・甲府城西に入学して、「人生が良い方向に変わった」という事例が、今後も増えたとと思う。 ・主体的に学ぶ姿勢を培うには、生徒の頑張りの結果が目に見えやすい形となり、達成感を得ることが必要であると考えます。教職員の皆様の学習指導の工夫も大変なご苦労だとは思いますが、段階的に到達度を設定したり、生徒個々の目標設定もステップアップしていきやすい形で出来れば良いのではないだろうか。 ・学習については、動機付けなどから個人への対応が重要になってくると思われるが、現実的には教員配置も厳しい状況があるため、今後は外部資源を積極的に導入してはどうか。 ・学習計画の中に根付いている体験的な学習は学校の特徴なので更に充実させて欲しい。 ・実際の授業内容等はよく分かりませんが、アンケート結果を見ると、近年のコロナ禍においても先生方の授業に対する創意工夫、努力が感じ取れます。これからも生徒のために努力を惜しまないでください。
4	・一人一台パソコンの利用状況について教えて欲しい。 ・ハード面はコロナ禍ということで対話的な学びが難しい中で、ICTなどの活用によって偏ったように見えがちですが、決して悪いことではなく、学習の手段として積極的に取り入れていいと考えます。授業の中でソフト面を先生や友人とのやり取りで培うことができるいいと思います。 ・コロナ対策の為に「対話的な学び」の難しさはあったようだが、ICTを活用した工夫した取組により、創造力を高める学びの実践が進められていると感じた。 ・資格取得に挑戦する生徒が増えた事に嬉しく思う。 ・ICTの活用が進んでいると思うが、コメントにもあるように、対話的な学びが難しい部分もあると思われる。資格取得や学習習慣など、ICTがポジティブに作用している部分もあると思うので、両者を今後どう活用していくかが課題であると思われる。 ・進路指導が頑張っている。有名な企業への就職が多いのはなぜか。 ・多方面への進路の実現には、先生方のご苦労は大きいと思いますが頑張ってください。 ・卒業後、各企業に就職した場合、関連資格は業務を遂行する上で必須となります。社会における資格取得の重要性を理解させることで、基本的な資格は在学中に取得すると思ふ。
4	・文化部の活動をもっと周知すべきである。 ・部活動の実績は素晴らしいものがあり今後が楽しみである。 ・部活動の活性化が学校の活性化に繋がると思う。 ・数多くの外部連携の充実もコロナによる様々な制限が緩和されつつあり、より一層充実するものと期待します。 ・「LHRや外部講師の講義などで」の生徒の高い評価が得られているので、そのような学習・授業を続けてもらいたいと思ふ。部活動においても、結果が出ていない部や成果を出していない生徒も、団体行動の素晴らしさや楽しさを感じてもらえるような指導ができるといいと思ふ。 ・部活への意識が高く、大会で結果を出していることは喜ばしいことと思ふ。しかし、LHRは相対的にAの評価が低いのが課題である。生徒の意見を取り入れたLHRの運営を行ってみるはどうか。 ・部活動を通して地球と交流や社会貢献をすることは非常に重要なことと思ふ。城西高校は体育系の部活も活発ですが、KJ通信を見と定期的に清掃活動を行ったりして、地域密着型の社会貢献活動はとても素晴らしいと思ふ。
4	・社会に出てから遅刻はいいけない。時間に余裕を持って行動することで精神的余裕も生まれる。 ・挨拶運動や、防災訓練等、是非地域と協働しての実施について検討して欲しい。 ・校則を受験生に周知することができれば、入学後に「知らなかった」ということにならないのではないかと。 ・教職員の皆様の評価が低く感じますが、マナーやモラルなどは押し付けられることではなく、自分で感じなければならないことだと思いますので、粘り強くこの活動を続けていただきたいと思ふ。校則についても時代に合った厳しさは必要だと考えます。 ・規範意識が高まってきているのは良いことだと思います。生徒指導要領も改訂され、校則については様々な議論があると思ふが、生徒と共に考える機会があってもいいのではないかと。 ・手軽にニュースや社会情勢を知ることが出来るようになったことが、逆に興味を持たないという情報を得ようとする姿勢に繋がってしまうと思ふので、授業で「自分も社会の一部である」という意識を持ってもらう、「産業と社会」や「総合的な探究の時間」の取り組みを続けていただきたいと思ふ。 ・保護者の回答に「分からない」が多いようだが、保護者説明会で教育活動について説明するのはどうか。生徒は自分に都合の良いことは伝えるが、悪いことは伝えないので、学校側が説明する必要があるのではないかと。 ・「授業やLHRでの新聞活用」の評価が他の項目に比べて低いように思ふ。また年々低下傾向にあるように思ふ。単純にほかの媒体が使われているだけかもしれませんが、より生徒に身近な話題を提供してみてもいいように思ふ。 ・山梨県は文化・伝統・芸術にふれた県だと思ふ。その中心的な役割を果たせるよう期待している。また、総合学科成果発表会を視聴してもらいました。今後も素晴らしい取組を更に充実させて欲しい。 ・非常に重要な内容だと思います。最近の社会情勢は目まぐるしく変わっていますが、新聞等を有効に活用して指導していただきたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。